

運営理念
官民協働による運営
人材の再生
地域との共生



刑務作業の御依頼はこちらへ

窓 口	電 話 番 号	主 な 業 種
法 務 省 矯 正 局	03-3580-8814	
東 京 矯 正 管 区	048-601-1607	
水 戸 刑 務 所	029-273-9796	木工、洋裁、金属、その他
栃 木 刑 務 所	0282-27-9611	洋裁、金属、その他
喜連川社会復帰促進センター	028-686-3111	木工、金属、その他
前 橋 刑 務 所	027-223-3024	木工、印刷、金属、革工、その他
千 葉 刑 務 所	043-232-6079	木工、印刷、洋裁、金属、革工、その他
市 原 刑 務 所	0436-36-6001	金属、その他
東日本成人矯正医療センター	042-500-5271	その他
府 中 刑 務 所	042-362-2101	木工、印刷、洋裁、金属、革工、その他
横 浜 刑 務 所	045-842-0040	木工、印刷、洋裁、金属、革工、その他
横 須 賀 刑 務 支 所	046-842-4983	その他
新 潟 刑 務 所	025-286-5626	木工、金属、その他
甲 府 刑 務 所	055-241-8878	木工、洋裁、金属、革工、その他
長 野 刑 務 所	026-248-1114	洋裁、金属、革工、その他
静 岡 刑 務 所	054-261-2886	木工、印刷、洋裁、金属、その他
川 越 少 年 刑 務 所	049-242-0226	木工、金属、その他
松 本 少 年 刑 務 所	0263-32-3093	木工、印刷、洋裁、金属、その他
東 京 拘 置 所	03-3690-6681	その他
立 川 拘 置 所	042-540-4191	その他

メールでのお問合せ先

Kyosei-sagyou@i.moj.go.jp

- 件 名：刑務作業依頼
- 記載事項：①会社名
②住所
③連絡先（電話番号、FAX 番号、E-Mailアドレス）
④担当部署、担当者名（ふりがな）
⑤作業内容、希望人員、希望地域など
⑥その他要望事項

表紙のLavoro（ラヴォーロ）とは
イタリア語で「働く」という意味です。

—取材先—
喜連川社会復帰促進センター

—企画・取材・編集—
東京矯正管区成人矯正第二課

—発行—
東京矯正管区

〒 330-9723
さいたま市中央区新都心 2-1
さいたま新都心合同庁舎 2 号館 13 階
【TEL】 048-600-1500 【FAX】 048-600-1505



本誌のバックナンバーは
こちらから▼



匠の技

確かな技術によって
作り出される

日光彫製品



日光彫の技法は

ヒッカキ刀という、独特のキリダシを使うのが大きな特徴となっています。ヒッカキは線彫用の刃物で、先端を60度に曲げたキリダシを手前に引いて彫ることから「ヒッカキ」と呼ばれています。

必ず彫刻のどこかにヒッカキ刀を使わないと日光彫と言わせないと言われるくらい、代表的な彫刻刀です。

当センターでの日光彫の訓練でも、初めはヒッカキ刀の練習から入り、段階に応じて刃物を使い分けていきます。

日光彫と 鎌倉彫の 違い

高度な 技術と修練

技術の習得は、日々自分との闘いで辛いもの。それを乗り越えなければ明日の希望もない。「悔しくても、悲しくてもガンバル」の一言。
私は一人ひとりの技術の進歩を大切にするため個々の能力を見出して、それを引き出し、一刀一刀に心を込めた作業を指導することを信念としています。

小嶋 法務技官

【座右の銘】
やってみせ、
言って聞かせて、させてみて、
ほめてやらねば、人は動かじ



	鎌倉彫	日光彫
起 源	鎌倉時代、中国から伝えられた紅花緑葉（堆朱の一種）をまねて仏具を制作し始めたのが始まり	江戸時代、三代将軍家光が東照宮を現代の豪華な社殿に作り替えたとき、全国から集められた名匠たちが、余技として作ったのが始まり
発展の仕方	もともと仏像などの立体彫りであったものが、やがて板物彫りに変わってきた	最初から板目を彫って育てた純粋な板目彫り
彫りの技法	全て浮かし彫り	線彫り、浮かし彫りなどの合わせ彫り
工具	浅丸突刀	ヒッカキ刀（日光彫独特）
彫り方	前に押して彫る（彫り口が女性的）	手前に引いて彫る（彫り口が男性的）
平面部の模様	「地紋」と呼ばれる模様が施されている 	「星打ち」と呼ばれる模様が施されている 



日光彫で使用する専用掘り具



日光彫の特徴である、手前に引いて彫る作業



細かい部分は刃を立てて丁寧に



専用資材置き場は部材によってきちんと整理されている。



役割によって異なる専用機器



工程最終段階の塗装場では1台ずつ木目の調子を見ながら塗料をかけていく。

機械作業場・彫刻作業風景



高度な作業を行うための充実した木工機械



1



一人ひとりの技術を大切にするために、個々の作業台で技術と知識を習得している。



2



1 数多の専用彫り道具を使い分けて絵柄を彫り出す。
2 かんなは「ならい目」に沿って丁寧にかける。

伝統工芸的作業実施状況

日光彫について



日光彫の原材料



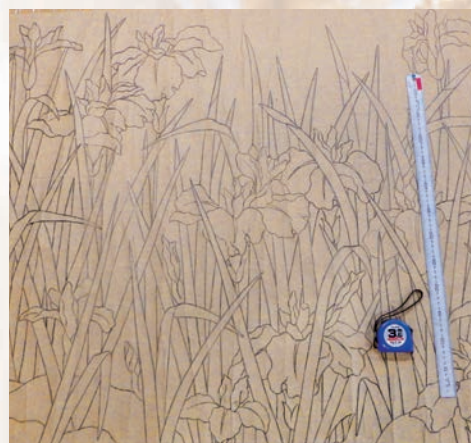
あら彫り



タンスの組み立て



仕上げ彫り



前板の絵柄



出来上がり製品

生産技術訓練の 日光彫

日光彫の訓練は、一つの題材を六か月かけて実施しています。はじめの一か月は、彫刻刀を一日中力を入れて握っているのので、指を痛めて眠れない日もあるほどです。それでもあきらめずに彫り続けることで、素晴らしい日光彫ができるかと信じて頑張ります。

木材には逆目やアテ（節や枝に近く、曲がりや反りが生じやすいところ）があり、見極めるのに経験が必要です。訓練開始から七、十か月ほどで、ようやく一つの完成形が彫れるようになります。生産技術訓練で作られた渾身の製品をどうぞご覧ください。



長い時間と数多くの工程を経て削り出される日光彫筆箱。CAPICでも購入が可能です。

編集後記

本誌を最後までご覧いただきありがとうございます。

喜連川社会復帰促進センターは、今年度から刑務作業製品を売り出すこととなりました。今後ともよろしく願いいたします。

刑務作業製品は、各施設の常設展示場やインターネット通販「e-CAPIC」でお買い求めいただけますので、是非ご利用ください。



お問合せ先

喜連川社会復帰促進センター

〒329-1493 栃木県さくら市喜連川5547
TEL: 028-686-3111

日光彫の起源は、寛永十一年（一六三四年）三代將軍家光が、東照宮を現在の莊嚴華麗な社殿に造り替えたとき、全国から集められた名匠たちが、余技として作ったのが始まりと言われています。東照宮は、元和三年（一六一七年）に創建されましたが、その造替に当たった大工内夫は延べ百六十八万人、彫物大工が四十万人に及び、その後日光に永住した匠によって日光彫は伝えられました。